

● 教室(診療科)の特色 ●

手術麻酔・ペインクリニック・集中治療・救急医療・緩和医療・在宅医療(同門の先生と連携)・老人医療(関連施設)を担当しています。また、麻酔科学を修得することで、入局してから引退するまで(ゆりかごから墓場まで)、「ジェネラリスト」として様々な分野の診療ができます。



南 敏明(みなみ としあき)教授

- 専門分野
麻酔科学・疼痛治療学
- 職歴
1987年3月 大阪医科大学(現 大阪医科薬科大学)卒業
1987年6月 大阪医科大学麻酔科学教室に入局
1993年3月 大阪医科大学大学院修了 医学博士
2002年4月～ 大阪医科大学教授
2006年6月～2018年3月 関西医科大学客員教授
2020年4月～ 大阪医科大学附属病院(現 大阪医科薬科大学病院) 病院長
- 主な学会/専門医資格
日本麻酔科学会/代議員/指導医
日本ペインクリニック学会/評議員/専門医
日本臨床麻酔学会/評議員
- 研究課題
神経障害性疼痛のメカニズムの解明と治療薬の開発



中平 淳子(なかひら じゅんこ)講師(科長)

- 専門分野
麻酔科学・心臓血管麻酔
- 職歴
2003年3月 大阪医科大学(現 大阪医科薬科大学)卒業
2003年4月 大阪医科大学麻酔科学教室に入局
2008年3月 医学博士
2019年4月～ 大阪医科大学麻酔科学教室講師
2020年4月～ 大阪医科大学附属病院(現 大阪医科薬科大学病院) 麻酔科・ペインクリニック科科長
- 主な学会/専門医資格
日本麻酔科学会/指導医
日本心臓血管麻酔学会/専門医
日本臨床麻酔学会
- 研究課題
周術期の呼吸評価、肺容量の変化



日下 裕介(くさか ゆうすけ)特別任命教員教授

- 専門分野
麻酔科学・集中治療医学
- 職歴
2004年3月 大阪医科大学(現 大阪医科薬科大学)卒業
2004年4月～2006年3月 初期臨床研修
2006年4月 大阪医科大学麻酔科学教室に入局
2013年9月 医学博士
2016年4月 大阪医科大学麻酔科学教室講師
2020年5月～ 大阪医科大学麻酔科学教室特別任命教員教授
- 主な学会/専門医資格
日本麻酔科学会/指導医、日本集中治療医学会/専門医
日本心臓血管麻酔学会/専門医
- 研究課題
動脈圧波形解析、周術期の輸液・輸血療法

● 診療科の概要・特徴 ●

大阪医科薬科大学病院では、2021年、全手術件数12,363件、麻酔科管理症例6,722件と豊富な症例を経験できます。また、ペインクリニック外来は、1966年、故兵頭正義教授が日本においては東京大学に次いで2番目に開設され、伝統があります。2022年までの医局員の出身大学は25大学からなります。

● 教室(診療科)指導医・上級医 ●

氏名(職掌)	専門医	研究課題
日下裕介(特別任命教員教授)	日本麻酔科学会指導医・日本集中治療医学会専門医・日本心臓血管麻酔専門医	心臓血管麻酔・集中治療
梅垣 修(准教授)	日本麻酔科学会指導医・日本集中治療医学会専門医・日本救急医学会救急科専門医	集中治療
中平淳子(講師)	日本麻酔科学会指導医・日本心臓血管麻酔専門医	心臓血管麻酔・呼吸管理
間嶋 望(講師)	日本麻酔科学会指導医	小児麻酔・ペインクリニック
中野祥子(講師)	日本麻酔科学会指導医	小児麻酔
門野紀子(助教)	日本麻酔科学会指導医・日本集中治療医学会専門医	麻酔科学・集中治療
下山雄一郎(助教)	日本麻酔科学会指導医・日本集中治療医学会専門医	麻酔科学・集中治療
今川憲太郎(助教)	日本麻酔科学会専門医	麻酔科学・集中治療
中尾謙太(助教)	日本麻酔科学会専門医、日本ペインクリニック学会専門医	麻酔科学・ペインクリニック
北埜 学(助教)	日本麻酔科学会専門医	小児麻酔
上野健史(助教)	日本麻酔科学会専門医、日本小児科学会専門医	小児麻酔
佐野博昭(助教)	日本麻酔科学会専門医	麻酔科学・ペインクリニック
出口志保(助教(准))	日本麻酔科学会専門医	麻酔科学・集中治療

■連絡先：大阪医科薬科大学医学部麻酔科学教室 TEL:072-683-1221 / e-mail:ane000@ompu.ac.jp
 ■ホームページ：<https://www.ompu.ac.jp/u-deps/ane/>

氏名(職掌)	専門医	研究課題
長峯達成(助教(准))	日本麻酔科学会専門医	心臓血管麻酔
山崎智己(助教(准))	日本麻酔科学会専門医	心臓血管麻酔
藤澤貴信(助教(准))	日本麻酔科学会専門医	心臓血管麻酔
倉橋直仁(助教(准))	日本麻酔科学会専門医	麻酔科学・集中治療
進藤真美子(助教(准))	日本麻酔科学会専門医	麻酔科学・ペインクリニック
富畑 翔(助教(准))	日本麻酔科学会専門医	麻酔科学・救急医療
野田祐一(助教(准))	日本麻酔科学会専門医	小児麻酔
山本汐里(助教(准))	日本麻酔科学会専門医	麻酔科学・ペインクリニック

初期研修プログラムの特徴

本院の中央手術室では、2021年には麻酔科管理症例6,722件と症例が非常に豊富であり、心臓血管麻酔、小児麻酔、産科麻酔などをバランスよく研修ができます。麻酔科標榜医取得には、「医師免許を受けた後、麻酔の実施に関して十分な修練を行うことのできる病院または診療所において、2年以上修練をしたこと。(医療法施行規則第42条の4第2項第1号。)」が必要ですが、そのためのキャリアとなります。

研修内容

手術麻酔

<1年目>

- | | |
|----------------|----------|
| ① 静脈路確保 | ② マスク換気 |
| ③ 声門上器具挿入 | ④ 気管挿管 |
| ⑤ 胃管挿入 | ⑥ 全身麻酔管理 |
| ⑦ 親血的動脈カテーテル留置 | ⑧ 中心静脈穿刺 |
| ⑨ 脊髄くも膜下麻酔 | |

<2年目>

- ① 手術麻酔の1年目の内容
- ② 肺動脈カテーテル挿入
- ③ 硬膜外麻酔
- ④ 分離肺換気

ペインクリニック(2年目, 1-2ヶ月)

- ① 疼痛の基本的知識の理解
- ② 疼痛疾患の問診
- ③ ペインクリニックにおける代表的な疾患の診断と治療法の理解
- ④ 各種神経ブロックの適応と方法の理解
- ⑤ 各種薬物療法の意義と施行方法の理解

⑥ 理学療法の理解

⑦ 手技の実践

- | | |
|--------------|--------------|
| ◎ トリガーポイント注射 | ◎ 仙骨部硬膜外ブロック |
| ◎ 持続硬膜外ブロック | ◎ 膝関節注射 |

集中治療 (ICU) (2年目, 1-2ヶ月)

- ① 重傷集中治療の基本概念の理解
- ② 重症患者の病態把握
- ③ 循環系モニタリング (動脈圧、肺動脈カテーテル等) の評価
- ④ 循環作動薬の使用
- ⑤ 呼吸不全の病態の理解
- ⑥ 人工呼吸器を使用した呼吸管理
- ⑦ 急性血液浄化
- ⑧ 感染症治療の基礎
- ⑨ 栄養管理

評価方法

日本麻酔科学会専門医により、研修内容の評価を行う。



手術室での集合写真

専門研修プログラムの特徴

2016年に手術室20室、集中治療室16床を含む中央手術棟が新設され、麻酔科医局と集中治療部医局はその2階にあります。手術麻酔、ペインクリニック、集中治療、救急医学、緩和医療を網羅したジェネラリストや、心臓血管麻酔、小児麻酔、産科麻酔などのスペシャリストを育成することを目標としています。

輪状甲状膜穿刺のシミュレーションを含む種々のセミナーや土曜カンファレンスでのミニレクチャーなどにより、専門医試験に向けた対策を行っています。また学会発表・論文作成の指導、将来の志望に応じた人事面でのサポートなどを行っています。



2021年 輪状甲状膜穿刺セミナー

プログラムの運営方針

- 4年間で手術麻酔の各専門分野(心臓血管麻酔、小児麻酔、産科麻酔など)を網羅的に研修するだけでなく、麻酔科専門医に求められるペインクリニック、集中治療、救急医療、緩和医療についても一定期間研修する。
- 研修の前半2年間のうち少なくとも1年間は、責任研修基幹施設の大阪医科薬科大学病院で研修を行う。
- 責任研修基幹施設では手術室麻酔だけでなくペインクリニックや集中治療を調整の上、一定期間ローテーションする。
- 希望により国立循環器病研究センター、兵庫県立こども病院で1年間の研修を行う。
- 研修内容・進行状況に配慮して、プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるように、ローテーションを構築する。
- 目標達成のため、困難気道管理、神経ブロックのシミュレーションセミナーを毎年開催する。超音波ガイド下中心静脈穿刺及びPICCは、医療安全推進室主催の講習会参加を必須とする。また、麻酔科専門医試験対策のセミナーを実施して、円滑に専門医に必要な知識・手技を習得できるように計画する。
- 最低経験症例を満たしながらも、各自の希望を相談しサブスペシャリティの構築を目指す柔軟なプログラムとする。

研修実施計画例

	標準	小児または心臓	ペインクリニックまたは集中治療	社会人大学院
初年度	本院 (ペインクリニック、集中治療)	本院	本院	本院
2年度	専門研修連携施設1	専門研修連携施設	専門研修連携施設1	専門研修連携施設
3年度	専門研修連携施設2	国立循環器病研究センター 兵庫県立こども病院	専門研修連携施設2	本院
4年度	本院	国立循環器病研究センター 本院	本院 (ペインクリニックまたは集中治療)	本院

取得できる認定医・専門医

麻酔科標榜医、日本麻酔科学会認定医・専門医・指導医
日本ペインクリニック学会専門医、日本集中治療医学会専門医
日本救急医学会専門医・指導医、日本心臓血管麻酔学会専門医
日本緩和医療学会専門医、日本小児麻酔学会認定医

2021年麻酔科管理症例数

1963年 麻酔科認定病院取得
麻酔科管理症例 6,722症例

	症例数
小児(6歳未満)の麻酔	237症例
帝王切開術の麻酔	182症例
心臓血管手術(小児・成人)の麻酔(胸部大動脈手術を含む)	376症例
TAVI・ステントグラフト手術	99症例
呼吸器外科手術の麻酔	361症例
脳神経外科手術の麻酔	460症例

大学院における教育・研究活動

教育・研究指導方針

研究は、臨床研究、基礎研究、さらに基礎研究でも動物（マウス、ラット）、細胞を用いた研究を行うかは、まず個人の意思を尊重している。研究テーマは、「痛み」が中心で、興味あるテーマがあれば柔軟に対応している。

研究活動の現状

岐阜大学大学院医学系研究科再生医学専攻、大阪工業大学工学部生命工学科との共同研究、合同カンファレンスを行っている。

現在の研究テーマ

- ①南 敏明 教授
神経障害性痛のメカニズムの解明と治療薬の開発
- ②日下 裕介 特務教授
動脈圧波形解析、周術期の輸液輸血療法
- ③梅垣 修 准教授
重症集中治療医学に関する臨床研究
- ④中平 淳子 講師(科長)
肺手術後の残存肺の研究
- ⑤間嶋 望 講師
小児麻酔に関する臨床研究
- ⑥中野 祥子 講師
周術期の疼痛管理

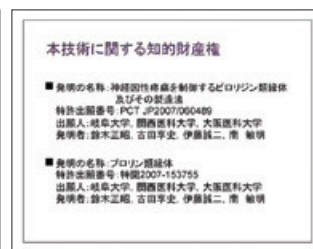
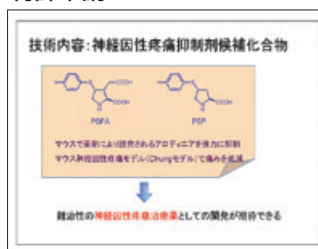
研究業績

原著

- ①Minami T. et al. Pain. 50: 223-229, 1992. (学位論文)
- ②Nishihara I. et al. Brain Res. 677: 138-144, 1995. (学位論文) (日本麻酔科学会若手研究者奨励賞)
- ③Onaka M. et al. Anesthesiology. 84: 1215-1222, 1996. (学位論文)
- ④Hara N. et al. Br. J. Pharmacol. 121: 401-408, 1997. (学位論文) (日本麻酔科学会若手研究者奨励賞)
- ⑤Sakai M. et al. Br. J. Pharmacol. 123: 890-894, 1998. (学位論文)
- ⑥Okuda-Ashitaka E. et al. Nature. 392: 286-289, 1998.
- ⑦Eguchi N. et al. Proc. Natl. Acad. Sci. U.S.A. 96: 726-730, 1999.
- ⑧Nakano H. et al. J. Pharmacol. Exp. Ther. 292: 331-336, 2000. (学位論文)
- ⑨Doi Y. et al. Neuroreport. 13: 93-96, 2002. (学位論文)
- ⑩Muratani T. et al. J. Pharmacol. Exp. Ther. 303: 424-430, 2002. (学位論文)
- ⑪Nishimura W. et al. Eur. J. Pharmacol. 503: 71-75, 2004. (学位論文)
- ⑫Tatsumi S. et al. Neuroscience. 131: 491-498, 2005. (学位論文)
- ⑬Takayama R. et al. Anesth & Analg 100: 1458-1462, 2005. (学位論文)
- ⑭Sawai T. et al. Anesth & Analg 101: 1597-1601, 2005. (学位論文)
- ⑮Shimizu S. et al. Anesthesiology 104: 791-797, 2006. (学位論文)

- ⑯川上真樹子. 大阪医科大学雑誌 65: 212-220, 221-231, 2006. (学位論文)
- ⑰Soen M. et al. Eur. J. Pharmacol. 575: 75-81, 2007. (学位論文)
- ⑱Nakahira J. et al. Bull. Osaka Med. Coll. 56: 49-57, 2010. (学位論文)
- ⑲Shimoyama Y. et al. J. Clin. Anesth. 24: 531-536, 2012. (学位論文) (日本麻酔科学会若手研究者奨励賞)
- ⑳Kusaka Y. et al. J. Cardiothorac. Vasc. Anesth. 26: 223-226, 2012. (学位論文)
- ㉑Miyazaki S. et al. Eur. J. Pharmacol. 710: 120-127, 2013. (学位論文) (兵頭正義記念賞)
- ㉒Kori K. et al. J. Altern. Complement. Med. 19: 946-950, 2013. (学位論文)
- ㉓Majima N. et al. Bull. Osaka Med. Coll. 59: 37-44, 2013. (学位論文)
- ㉔Shiomi M. et al. J. Anesth. 28: 593-600, 2014. (学位論文)
- ㉕Shiomi M. et al. Eur. J. Pharmacol. 724: 58-66, 2014. (兵頭正義記念賞)
- ㉖Kadono N. et al. Bull. Osaka Med. Coll. 60: 13-18, 2014. (学位論文)
- ㉗Yamaguchi K. et al. Respir. Physiol. Neurobiol. 206: 11-14, 2015. (学位論文) (兵頭正義記念賞)
- ㉘久保田泰弘. 大阪医科大学雑誌 73: 75-80, 2014. (学位論文)
- ㉙Omoto H. et al. Eur. J. Pharmacol. 760: 42-48, 2015. (学位論文) (兵頭正義記念賞)
- ㉚Kuzukawa Y. et al. Anesth & Analg. 121: 1202-1206, 2015. (学位論文)
- ㉛Fujiwara S. et al. Biomed. Res. Int. 190163, 2015. (学位論文)
- ㉜Kusunoki T. et al. J. Clin. Anesth. 33: 37-40, 2016. (学位論文) (兵頭正義記念賞)
- ㉝Kido H. et al. J. Clin. Anesth. 27: 476-480, 2015. 29:40-45, 2016. (学位論文)
- ㉞Cho T. et al. Am. J. Emerg. Med. 34: 989-992, 2016. (学位論文)
- ㉟Nakano S. et al. BMC Anesthesiol. 16: 32, 2016. (学位論文)
- ㊱Kuwamura A. et al. J. Altern. Complement. Med. 21: 485-488, 2015. (学位論文)
- ㊲Ishio J. et al. Bull. Osaka Med. Coll. 63: 21-28, 2017. (学位論文)
- ㊳Mihara R. et al. Acute Med Surg. 5: 350-357, 2018. (学位論文)
- ㊴Nakao K. et al. Evid Based Complement Alternat Med. 2356920, 2019. (学位論文) (兵頭正義記念賞)
- ㊵Fujiwara A. et al. J. Anesth. 34: 373-381, 2020. (学位論文)

特許申請



医局員からのコメント



間嶋 望 講師

こどもの痛み外来開設

当科におけるペインクリニックは、全国で2番目に開設された歴史と伝統を有しています。西洋医学のみならず、漢方や鍼灸など東洋医学も積極的に取り入れた治療を行っているのが特徴です。2021年12月こどもの痛み外来を開設させて頂きました。2022年2月現在、他施設で、こどもの慢性痛を専門にしているペインクリニックはありません。しかし実際は、大人のみならず、慢性痛で悩んでいるこどもがいます。こどもの慢性痛は日常生活の制限、不登校、成長への影響、成人期の慢性痛への移行など重大な問題につながります。頭痛、腹痛、腰痛など、こどもの慢性痛は、症状や原疾患、成長段階や背景など多種多様です。痛みの原因や状態に応じて、一人一人に適した治療法が必要になります。薬物療法、神経ブロック(必要に応じて鎮静下)、理学療法(小児鍼灸)、心理療法(小児専門の臨床心理士)などを組み合わせ、大学病院の強みである各部門の専門性を協力し合い多職種による多面的なアプローチで治療を行っています。他科から疼痛コントロールに難渋して紹介となる場合が多く、頭を悩ます症例が多いですが、こどもの痛みが軽減した時に心から喜びや仕事のやりがいを実感します。こどもが痛みを気にせず社会に羽ばたいていく手助けをするために、日々、試行錯誤しています。

痛みで困っている人達の手助けをできることは、疼痛コントロールのスペシャリストの麻酔科医として大きな力となることは間違いありません。麻酔科医を志すならば、ぜひペインクリニックもしっかり研修できる施設での研修をおすすめします。



木村 小百合 助教

当院で硬膜外無痛分娩を経験して

皆さんは無痛分娩に対してどのような印象をおもちでしょうか？

「麻酔薬が母体や児に影響はないのか？」や「事故が起きたら怖い」という

声も少なくありませんが、無痛分娩は産後の回復が早く、出産直後から育児に積極的に関わられるという利点があります。アメリカでは60%以上、フランスでは80%以上の妊婦が無痛分娩を選択しており、海外での生活経験がある方は無痛分娩が一般的であるという認識ですが、日本では無痛分娩が導入されて数十年が過ぎた現在でも少数にとどまっているのが現状です(2018年のデータでは全分娩の約6%)。

以前より無痛分娩に興味があり、自身が出産する際にはぜひとも無痛分娩を選択したいと思っていました。今回私が当院で経験した無痛分娩について出産レポートいたします。

実弟の腹腔鏡下胆嚢摘出術が無事に終了した翌日、夜に破水し入院。初産のためまだしばらく陣痛は来ないだろうと呑気に

考えており、少しでも睡眠をとっておこうと病院のベッドに入りうとうとしかけていたところ、午前2時頃から陣痛間隔が6分間隔に。それでもまだまだ序盤だと勝手に自己判断し様子を見ていましたが、陣痛間隔2-3分、声が漏れるほど痛みが増強してきたため内診してもらおうともうすでに子宮口3-4cm開大まで進んでいました。実は同期の麻酔科医に硬膜外カテーテルの挿入をお願いしていましたが、急いで主治医が手術室に連絡し、真夜中午前4時という当直麻酔科医泣かせの時間帯に、しかも後輩の麻酔科医にかなりの気を遣わせながら硬膜外カテーテルを挿入していただきました。麻酔開始後は特にS領域の効果抜群で、産科医や助産師と世間話ができるくらい痛みは緩和され、手術室からそのまま分娩室に移動。分娩第2期に入ってからの痛みはほぼなく、とにかくいきまくりました。児頭が産道から出てくる瞬間も見届けることができ、一生に残るとても感動的な時間を経験できました。会陰切開や縫合時の痛みもなく、出生したばかりの我が子との触れ合いの時間も穏やかに過ごすことができました。分娩中、児の心拍は一度も低下することなく、分娩時間約5時間40分と初産としてはスムーズなスピード出産となりました。

今回、麻酔科医である私自身が無痛分娩を実際に体験し、非常に満足度の高いお産を経験しました。分娩に関わっていただいたすべての方に感謝いたします。分娩方法に関しては色々な考え方がありますが、もし次回出産の機会があればまた無痛分娩を選択すると思います。どんな分娩方法であっても我が子は天使です！



山崎 智己 助教(准)

社会人大学院生として

私は2014年に大阪医科大学(現 大阪医科薬科大学)を卒業し、同大学附属病院で初期研修を終えて2016年に麻酔科学教室へ入局しました。1年間レジデントとして大学病院で研鑽した後に、2017年は天理よろづ相談所病院で、2018年は心臓病センター榊原病院で心臓血管麻酔を専門的に学び、2019年からは大学のスタッフとして手術麻酔の業務を行ってきました。

2020年に専門医を取得したことを契機に、基礎研究への興味が強くなり、2021年度から大学のスタッフとして働きながら、大阪医科薬科大学大学院へ入学しました。「TrkAノックアウトマウスを用いた難治性疼痛の機序解明とその応用」というテーマで研究しています。TrkAは高親和性ニューロトロフィン受容体の1つで神経成長因子と胎生期に結合することで小型後根神経節細胞から末梢組織に投射する1次求心性線維(感覚神経)や交感神経の伸張に関与しています。このTrkAを遺伝子ノックアウトしたマウスを用いて難治性疼痛の機序の解明を行っております。

このテーマで研究をはじめたときは、器具の使い方やマウスの飼育法もわからず、何から始めたらよいかの検討がつかない状況でした。当研究室では月に一度研究室カンファレンスを行っており、そこで研究の進展度のプレゼンテーションを行い、

問題点・改善点・今後の方針を話し合います。教授の南先生・客員教授の伊藤先生をはじめ、指導教員の先生方からアドバイスを頂き、研究を進めていくことができました。

研究と臨床という二足の草鞋は大変ではありますが、充実した日々を送っております。基礎研究に臨床とどちらもやりたいという先生方、是非ともレジデントとして当教室と一緒に学びませんか？見学をお待ちしております。



山崎 紘幸 助教(准)

ICUでの臨床研究

2017年に入局した助教(准)の山崎 紘幸と申します。当院レジデント、関連病院勤務を経験してから、2年間当院のICUに勤務しました。当院のICUは16床あり、semi-closed ICUとして主診療科(主科)と協力して重症患者の治療にあたっています。術後患者から救急搬送患者、院内急変患者など、年間約1400人がICUに入室します。

ICUに勤務するまで手術室で麻酔に従事していましたが、ICUに勤務してからは術後管理をはじめ、重症敗血症やCOVID-19などの感染症、体外循環装置や人工呼吸器、血液浄化装置など医療補助機器の管理方法など、重症患者管理について様々な経験をしています。手術麻酔に従事していた時も沢山の疑問を抱きましたが、ICUで術後患者を含めた重症患者の治療に携わると術中だけでなく術後も見ることになる上に、手術患者のみならず救急搬送患者や院内の急変患者を診療することで視野が広くなり、更に多くの臨床における疑問を抱くようになりました。それらの疑問を解決するにはガイドラインや論文を検索しますが解決しない事は多々あり、その中でも特に興味を持ったことを中心に実際に臨床研究を行っています。過去のデータを解析して行う観察研究を行ってから介入研究を行うことが一般的ですが、介入研究を行う上で、多くの場合主科との協力は欠かせません。当院のsemi-closed ICUでは治療を進める上で日頃から主科の先生とコミュニケーションをとるため、臨床研究を行う時に話をスムーズに進めやすいと思います。人間を対象とするため、厳しい倫理委員会の承認を得ることが必要ですが、実際の診療にあたって疑問に思うことを確かめる上でも、臨床研究は目的がはっきりしてやりがいがあると思います。その臨床研究を行う上で当院には素晴らしい環境があると思いますし、是非とも大阪医科薬科大学の麻酔や集中治療に興味を持って頂けたらありがたいと思います。



南川 侑介 レジデント

この1年を振り返って

2021年入局の南川侑介と申します。私は初期研修を当院で修めており、2年目の後半に手術麻酔と集中治療の勤務を選択しました。この間に中心静

脈カテーテル挿入や硬膜外麻酔、分離肺換気、小児麻酔など、麻酔科医としてより専門的な手技を経験しました。レジデントになってからは、大学では成人心臓血管麻酔、重症患者の緊急手術の麻酔、小児先天性心疾患の麻酔を、三島救命救急センターでは三次救急を経験し、かなり成長できた一年であったと実感します。学会発表や論文作成、抄読会での発表も行い、文献を調べて正しい知識や最新の研究結果の調べ方を学びました。外勤先では、慣れない環境でいつも通りの麻酔をする難しさを実感しました。様々な内容を学ぶことができ、専門医取得のために環境が整っていることをとてもありがたく思います。

レジデント2年目では天理よろづ相談所病院に出向し、さらなるレベルアップを目標に精進するつもりです。その後の出向先の選択肢として、心臓手術のハイボリュームセンター、小児病院、三次救急病院など、自分のやりたいことを選ぶことができます。医局員は趣味がある人が多く、グルメやゴルフ、釣り、サーフィン、キャンプなど様々な趣味をしっかりと持てること、また、病気や妊娠・出産のサポート体制が整っていることは非常に重要な点であると思います。仕事も生活も高みを目指すなら大阪医科薬科大学麻酔科学教室に入局して間違いありません。



山本 広大 レジデント

コロナ禍での病院移籍

麻酔科レジデントの山本広大です。私は三重大学を卒業後、東京都内の市中病院で初期研修を行いました。初期研修終了後、引き続き同じ病院の麻酔科専攻医プログラムに進み、麻酔科医としてのキャリアをスタートしました。公立病院であるため、新型コロナウイルス感染症の患者を受け入れていました。感染拡大の影響により手術件数は激減し、さらにはコロナ専門病院となり手術停止になるなど、麻酔科レジデントの期間に経験すべき症例を十分に経験できないまま、もどかしい日々を過ごしていました。そこで私は、このままでは一人前の麻酔科医になれないと感じ、苦渋の決断ではありましたが、病院の移籍を考えました。新たな病院を探している中で、手術麻酔だけでなく、集中治療、ペインクリニック、救急医療まで経験できる大阪医科薬科大学病院での後期研修に興味を持ちました。10月に入局希望というイレギュラーな問い合わせにも関わらず、webでの説明会や顔合わせの機会を頂くなど、とても迅速で丁寧な対応をして頂いたのが印象に残っております。

現在、入局して約半年が経過し、日々手術麻酔での麻酔手技や知識の取得に邁進しています。次年度の前半に、集中治療とペインクリニックの経験をさせていただく予定です。受け入れて下さった、指導に熱心な上級医の先生方と、心強い同期に囲まれながら、充実した日々を過ごしております。